

大会規則および選手注意事項

本大会は、2019年度(一財)日本陸上競技連盟規則によって行う。

1. 練習場は補助競技場とし、係員の指示に従って練習すること。ただし、投てき種目の練習は禁止とする。
2. 招集はすべて現地にて行う。トラック競技は開始15分前、フィールド競技は30分前までに集合すること。
3. 競技場は全天候舗装であるので、スパイクピンは9mm以下とする。ただし、走高跳およびジャベリックスローは12mm以下とする。
4. 競技用具の持ち込みは、競技前に必ず検定を受けなければならない。
5. ナンバーは必ずユニフォームの胸背部に確実に縫い付けること。ただし、走高跳と棒高跳と走幅跳については胸背部のどちらか一方でよい。
6. ユニフォームの上着の端は、ランニングパンツ等の内側に必ず入れること。
7. セパレートレーンで行われる競技では、決勝戦通過後は自分のレーン(曲走路)を走り、他走者の邪魔をしないこと。
8. トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載順に上から下とする。

挑戦会種目の走幅跳、投擲種目については、ベスト8を決定後、もう3回試技を行い合計6回試技を行う。
フィールド種目の記録会種目は、3回試技とする。

9. 走高跳・棒高跳びのバーの上げ方は下記の通りとする。

<走高跳>

男子(練習 1m25)30-35-40-45-50-55 以後3cmずつ上げる。

女子(練習 1m05)10-15-20-25-30 以後3cmずつ上げる。

<棒高跳>

(練習 2m00) 2m00-20-40-60 以後は10cmずつ上げる。

◎特殊条件によって変更するバーの上げ方は審判長が決める。

10. ハードルの高さは中学女子(76.2cm、8m)、A女子(76.2cm、8.5m)、中学男子(91.0cm、9.14m)、A男子(99.0cm、9.14m)とする。また砲丸投の重さは、中学女子、B女子は2.72kg、B男子・A女子は4.0kg、中学男子、A男子は5kgとする。また円盤投の重さは、男子は1.5kg、女子は1.0kgとする。
11. 本競技場は、7時から8時30分までとする。これ以外は補助競技場で行うこと。
12. 屋内練習場は、練習を禁止とする。ただし、気象状況により主催者の指示で解放する場合はある。
13. 発病、負傷に対しては応急処置のみ行う。
14. 挑戦会種目で、1位になった学校の監督は、本部までジュニアオリンピック参加申し込み書を取りにくること。